

「メディア芸術の拠点」を目指して

東京工芸大学 芸術学部長 岩谷 徹

平素より東京工芸大学同窓会の皆様には、本学の教育研究に多大なるご支援を賜り、深く御礼申し上げます。

私は本年4月に芸術学部長に就任いたしました岩谷と申します。ゲーム学、シリアスゲームを専門としております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本学は昨年創立90周年を迎えました。現在、芸術学部は写真学科、映像学科、デザイン学科、インタラクティブメディア学科、アニメーション学科、マンガ学科、ゲーム学科の7学科と大学院芸術学研究科メディアアート専攻（博士前期・後期課程）を有し、学生数は約2,600名に発展しております。いずれの学科も、まさに日本が誇るメディア芸術の専門分野の教育を行っております。

本年2月には長年にわたり進められてきました「中野キャンパスリニューアルプロジェクト」が完了し、芸術学部全学科の3、4年次生及び大学院生が中野キャンパスに集結いたしました。1、2年次生はこれまでどおり厚木キャンパスでの就学となります。

中野キャンパスを「メディア芸術の拠点」と位置づけていることに対し、厚木キャンパスは次世代のメディアアーティストの卵たちを育む場であると考えております。情報や様々な機器が溢れ、否応なしにそれらに囲まれている時代の中で、厚木キャンパスののびのびとした環境は、今の若者たちにもっと必要な感性を刺激し、養うことができる場になるのではないのでしょうか。また、工学部の学生や教員とともに学ぶ環境は、「工学・芸術学の理論と応用」「広い基礎的視野・認識」を身につけることに繋がるものと考

えております。本学が異なる環境の二つのキャンパスを有していることは学生たちの心身の成熟の面においても、アーティストとしての知識・技術の修得や作品制作の面においても、刺激になるものと思っております。

メディア芸術を創り出すのは「人」であることは言うまでもありません。メディアコンテンツに関わる産業界で活躍し、広く社会に評価される人材を輩出することは大変重要な使命であります。さらには、自分自身のテーマを持った表現者の育成、新たな価値の創造に挑戦し次の時代をリードしていくことのできる人材の育成をも目指してまいりたいと思います。

これから、芸術学部がメディア芸術を先導し、社会や多くの卒業生の皆様に認知・評価されることを目標として邁進して行かなければならないと考えております。

同窓会の皆様には、引き続き力強いご支援とご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

最後になりましたが、東京工芸大学同窓会のみまますのご発展と皆様方のご健勝・ご活躍を御祈念申し上げます。



第5回 ホームカミングデー



第5回ホームカミングデーが11月2日に開催されました。卒業して50年を記念に参加しました。当時の面影は跡形も無く変身したキャンパス、校門もなくビルの玄関にガードマンがいる近代的な大学になっていました。当日はホームカミングデーと言う事で暖かく迎え入れてもらった。大学祭の最中でにぎわいがあったが、なにか異次元の空間に入り込んだような気がしました。

式典では若尾学長より『学友記』を頂き、また懇親会では田沼会長のいつもの楽しい挨拶があり、先輩、後輩といり混じって有意義なひとときを過ごすことが出来ました。まだこの催しが認知できてないせいか参加者が少し寂しかったのが残念でした。

2次会は39期生数人で学祭でオープンしていた模擬バー(写真学科生の店)に顔をだす。お酒を飲みながら50年前の話を花が咲きました。小生にとって特にバーの女子学生が羽織っていた少し汚れた白衣が何故か鮮明に当時を思い出させてくれました。

同窓会役員の一ひとりとして、年に一度のこの催しが定着して同窓会会員が気軽に大学を訪れる日になってくれる事を願っています。

来年もまた大学でお逢いしましょう！特に卒業して50年、25年にあたる40期、65期生の皆さん、楽しみにしてて下さい！

安達 洋次郎(39期)





フォックス・タルボット賞

2014 フォックス・タルボット賞は10月7日に審査が行なわれ、下記の方々を受賞しました。写真は次ページ。

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い写真家の登竜門としての役割の他、国際的視野をもった写真家の育成を推進する目的により、1979年東京工芸大学短期大学部に設けられ、今回で第36回を迎えることになりました。

本賞は、ネガポジプロセスの発明者ウィリアム・ヘンリー・

フォックス・タルボット氏（英・William Henry Fox Talbot 1800-1877）の偉業をたたえ、イギリスのフォックス・タルボット美術館のご協力をいただき、氏の名前を冠した賞となっております。

本年度の応募者は49名、作品数70点でした。

第一席には福田宏美（フクダ・ヒロミ）さんが選ばれました。日常の光景の一部を魚という周囲の状況とは全く脈絡を感じさせないものに交換することにより、「日常の何気ない

情景」として、まさにその字義通りに無自覚に予定調和そのものとして見過ごしがちな、目の前に広がる世界を見ることの意味を、柔らかくユーモアを交えながら今一度考えさせてくれる作品です。

文：圓井 義典

2014年 フォックス・タルボット賞 入賞者

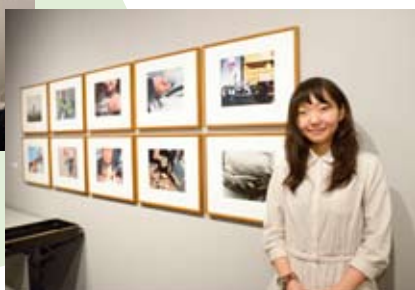
第一席	晴れのち晴れ	福田 宏 美	芸術学部写真学科研究生
第二席	The bottom of San Francisco	上 木 健 裕	芸術学研究科2007年修了
第三席	舞湯屋	鈴木 貞 一	芸術学部写真学科4年
佳作	僕らが奏でる	高 田 有 輝	芸術学部写真学科3年
佳作	After 2295 days	伍 永 健	芸術学部写真学科4年
佳作	風船世界	孫 華 華	写真学科2014年卒業
佳作	今ここをゼロとするなら	小 林 美加子	芸術学研究科修士1年
佳作	博	瀧 澤 優理子	芸術学部写真学科2年
モノクロ賞	境界	吉 田 志 穂	芸術学部写真学科4年

審査委員 田沼武能（委員長） 細江英公 中谷吉隆 立木義浩

フォックス・タルボット賞



第一席 福田 宏美



第二席 上木 健裕



第三席 鈴木 貞一



佳作 高田 有輝



佳作 伍 永健



佳作 孫 華



佳作 小林 美加子



佳作 瀧澤 優理子



モノクロ賞 吉田 志穂



東京工芸大学女子短期大学部同窓会である華輪会は昭和57年日本初の秘書科である母校新設と同時に発足し、第一期生卒業の1984年に活動を開始致しました。

10年前女子短期大学部閉校時に、田沼会長から「その気持ちは同じようにわかる」とのお言葉に励まされ、また貴会のご活躍に触れることで私たちはこれから先もずっと東京工芸大学女子短期大学部の卒業生であり続けるという素朴で不変の事実、同窓会や卒業生の活躍次第で母校の名が誇りとともに残ることに気づかせて頂きました。東京工芸大学にある3つの同窓会と折に触れ華輪会を妹分として尊重して下さることもありがたく、また身が引き締まる思いを致しております。私達が創立30周年を迎えることができました、みなさまの温かいご厚情に改めて深く感謝申し上げます。

東京工芸大学女子短期大学部同窓会
華輪会会長 宮永 悦子





東京工芸大学 第2回 神奈川県支部 同窓会 平成26年9月20日 於 ナビオス横浜

2014年9月20日、東京工芸大学同窓会神奈川県支部総会が横浜の港の近くのホテル・ナビオスで開かれた。6年ぶりの開催で、今年の同窓会は、6年前の同窓会開催日と月日、曜日と同じだった。神奈川県出身の同窓生は2350名おり、全員に通知を出したが、28期のお二人から平成16年度卒業の方まで、また湯浅さんご夫妻を交え、幅広い年齢層の29名の出席者だった。平井貞幸同窓会県支部長の挨拶のあと、川名同窓会理事長の挨拶、大学広報部の斉藤保雄氏から大学の現状についての説明があった。そして

池田陽子名誉教授によるご自分のライフワーク「文楽」の写真についての講演と投影があり、記念集合写真の後、懇親会に移った。松井登志男氏の司会で、出席者全員が近況を発表し、会員相互の親睦を図った。近況報告の際に、その話に関連した感想・意見を飛び入りで話す方も多く、にぎやかな会であった。最後に次期新支部長の高野光弘氏の挨拶でお開きになった。

記 鈴木 克明 (40期)

東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展 2015

「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展 2015」を以下の概要にて開催します。メディアアート教育の集大成である卒業・修了制作作品を一堂に展示し、学内・外に広く公開することで、メディアアーティストとしてのデビューを支援する、大変見応えのある展覧会です。18回目を迎えた今回は、4回目の秋葉原を会場として開催いたします。ぜひご来場下さい。

■ 開催期間

平成 27 年 2 月 20 日 (金) 14:00 ~ 20:00
 2 月 21 日 (土) 10:00 ~ 20:00
 2 月 22 日 (日) 10:00 ~ 16:00

■ 開催場所

秋葉原 UDX (東京都千代田区外神田4-14-1)

■ 交通

JR 東日本「秋葉原」駅 徒歩2分
 東京メトロ銀座線「末広町」駅 徒歩4分
 東京メトロ日比谷線「秋葉原」駅 徒歩3分

■ 問い合わせ

東京工芸大学 中野キャンパス学生課
 〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5
 TEL : 03-5371-2674
 URL : <http://www.t-kougei.ac.jp/>



東京工芸大学同窓会 第45回新潟県支部総会 プライダルステージDuo 平成26年8月31日

毎年 100 名ほどの連絡を希望する会員にご案内し、今回は 12 名の参加がありました。

今年は新潟市で開催しました。2年毎に新潟市、長岡市で行っています。総会で黙祷、会務報告、決算報告をし、その年に依って違いますが、エクスカッションやミニ講演会を取り入れています。

今年は大学から映像学科、大津はつね教授よりお話をさせて頂きました。同窓会からは糸賀常務理事が出席されました。お忙しいところ新潟までお出で頂き、誠にありがとうございました。

その後、懇親会に入り、33期、渡辺様の乾杯のご発声があり、恒例の会員の近況報告をお一人ずつご発言頂き、大変、盛り上がりしました。来年も新潟市で開催する、新津の美術館の写真展の後援をするなどが決まり、33期、堀江前支部長の締めでお開きになりました。

新潟県支部長 小林 俊郎

東京工芸大学に新しい学びの「領域」
2014年4月から映像学科に

身体表現領域の始動！

1994年開設の芸術学部映像学科では、写真教育の長きにわたる伝統を受け継ぎながら、映画やTV、CMなど、メディア・コンテンツ産業に携わる数多くの人材を輩出してきました。

映像学科が設立20周年を迎えた2014年度から新たな学びの領域として「身体映像領域」を設けました。本学90年の歴史のなかでも最も新しい学びとなる「身体表現領域」ではメディア芸術の新時代を切り開く進取の精神に富んだ学生諸君を求めています。

卒業後の進路先については、俳優、タレント、アナウンサー、声優、MC、ダンサー、アート・プロデューサーなどを想定しており、芸術分野の広範囲にわたる人材輩出に貢献できるものと考えております。



大津はつね教授



編集後記

ここ数年、有名な画家の展示、国宝の展示などが多くなっている。TV、ネット、新聞等のメディアが取り上げるためか、都会での美術館、博物館の会場は、見学者が多く、時には入場に1、2時間待ちの事も多い。また入場出来たとしても、会場は大混雑、会場整理をする人が出る始末、整理員から「立ち止まらないでください」「急いで歩いてください」と急かされる。ゆっくり鑑賞する雰囲気ではない。

そこで、最近では2、3ヶ月、半年は遅れるが地方での巡

回を観に行くことにしている。地方の会場の良い所は、どこも非常に空いている。1部屋に数人もいれば、多いこともある。気に入ったものをゆっくりと、また、何回も心行くまで鑑賞出来る。しかし、困ったこともある。鑑賞マナーが出来てないことである。会場が静かなこともあって、お友達同士のおしゃべりの声大きいこと、歩く靴の音が大きく響くことである。美術館の鑑賞の時は靴底、ヒールの音のしないものを履いて欲しい。

木村 政夫 (38期)



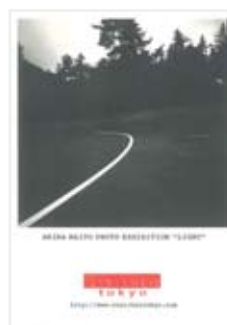
悲しき迷走
 2014年11月19日～12月2日
 銀座 Nikon Salon
 東京都中央区銀座 7-10-1
 2015年1月22日～1月28日
 大阪 Nikon Salon/
 ニコンサロン/bis 大阪
 大阪市北区梅田 2-2-2
 ヒルトンプラザ
 ウエストオフィスタワー 13階
小林 紀晴 (63期)



sjφsnegler
 2014年12月11日～12月16日
 にじ画廊
 東京都武蔵野市吉祥寺本町 2-2-10
牛山 ゆみ (88期)

生活圖鑑

2015年1月23日(金)～
 1月28日(水)
 OPA gallery
 東京都渋谷区神宮前 4-1-23
手塚 隼人 (87期)



AKIRA NAITO PHOTO EXHIBITION "LIGHT"
 2014年10月8日～10月22日
 Steichen Tokyo
 東京都台東区谷中 2-12-2 1F
内藤 明 (47期)



energeia
 2014年12月7日～12月13日
 Raum1F
 東京都渋谷区神宮前 5-39-12
村松 佑樹 (89期)

いろてがみ 鈴木紗穂 個展
 2014年11月11日～11月16日
 TAMBOURIN GALLERY
 東京都渋谷区神宮前 2-3-24
鈴木 紗穂 (85期)



第12回 TIS 公募受賞作品展

2014年10月2日～10月16日
 ギャラリー 5610
 東京都港区南青山 5-6-10
 5610 番館
遠藤 ゆりこ (86期)



訃報 (敬称略)

氏名	期	学科	旧姓
中根 貞爾	(第19期)	写真理学科	
暮沼 正則	(第20期)	写真理学科	(五味)
長谷川 健作	(第21期)	写真化学工業科	
河西 吉弥	(第26期)	写真技術科	
渡辺 靖	(第27期)	写真技術科	
林 忠男	(第28期)	写真技術科	
赤井 博且	(第28期)	写真工業科	
藁科 年衛	(第32期)	写真工業科	
桑村 誠二郎	(第33期)	写真技術科	
北澤 聡	(第33期)	写真工業科	
服部 誠一	(第34期)	写真技術科	
竹原 毅	(第35期)	写真工業科	
速水 成夫	(第38期)	写真印刷科	
矢野 亮	(第39期)	写真印刷科	
湯口 正憲	(第44期)	写真技術科	
菅谷 幸夫	(第48期)	写真技術科	
野尻 敬嗣	(第48期)	写真技術科	
古瀬 健介	(第62期)	写真技術科	
宮下 牧	(第70期)	画像技術科	



肖像—対峙する視線
 2014年11月24日(月)～
 12月26日(金)
 10:00～20:00
 写大ギャラリー
 東京都中野区本町 2-9-5
 芸術情報館 2F